

教育目標	
すべての教育活動の中で、主体性と社会性を身に付け、地域に貢献できる生徒の育成を目指す	
年度末の最終評価	
自己評価	教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し 昨年度より、縦割活動を柱に据えつつ、「主体性と社会性を身に付け」ることを意識しながら、学校運営を行ってきた。その成果として、「学校生活が楽しい」と感じる生徒が多数おり、学校の根幹である「安心・安全」を担保することができた。日々の教育活動においても、「地域に貢献できる生徒の育成」を目指しながら取り組みを実施することができた。これらを成果を保ちつつ、次年度は学習面においても、成果につながる方策を計画していきたい。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 生徒の多くが「学校生活が楽しい」と感じている。これは素晴らしいことであり、生徒たちの育成がうまくいっている証拠だと思えます。今の運営、指導方法を伸ばしていけば、さらに良い学校になると思えます。

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	R7/10/16	学校運営協議会 会長 中澤様
最終評価		学校運営協議会 会長 中澤様

(1)「確かな学力」の育成に向けて 『学力向上プラン』

重点目標
各教科において、学習指導要領が目指す資質・能力の育み方に基づいた授業実践を行い、生徒が学びがいや学び心地を実感できる授業設計の実践
具体的な取組
(1)つながりのある知識・技能の定着のために ・簡潔でわかりやすい説明と板書の実践 ・個別の知識と関連付けた「概念としての知識」を獲得させるための発問や設題の準備 ・言葉、図、記号、印などを用いた言語活動を意識した取組実践
(2)思考、判断、表現の力を鍛えるために ・知識・技能を活用し、考察、分析、解釈、課題発見、解決、創意工夫させるような課題や言語活動（文章、図、式、表、作品、パフォーマンスと説明活動）の準備と実践 ・多様な反応を期待するとともに評価者として適切に反応を受け止め、規準と客観性を重視した妥当性のある評価の実践

- ・ ロイロノートを用いた意見の共有を通して、検討や批評などの学習活動の実践

(3)主体的に学習に取り組む態度を育むために

- ・ (1)(2)で取り組む課題や言語活動に対し、粘り強く取り組み、「ねらい」や「目標」の達成のために試行錯誤をしながら取り組む様子を目視や記述から見取る
- ・ 生徒が「ちょっと難しそうだけど、頑張ればできそうだ」となるように「認めてもらえる」「班のメンバーや級友との対話ができる」と感じられる授業の実践
- ・ 「聞いているか」「視写しているか」「提出したか」が評価の主要要素にならないように評価材料の蓄積の実践
- ・ 評価基準や評価規準の明確なる提示と理解

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・ 学習確認プログラム及び全国学力調査の結果分析
- ・ 生徒、保護者及び教職員の評価アンケート結果

※ 「子どもは授業に自分から取り組んでいる。」「ロイロノートの使用率」「目標の提示」の質問。

中間評価

各種指標結果

- ・ 学習確認プログラムの結果 (数値の単位はポイント)

1年生の4月、入学当初に実施したジョイントプログラムで京都市平均より総合-6.8、国語-5.3、数学-8.1と大きく下回る結果となった。

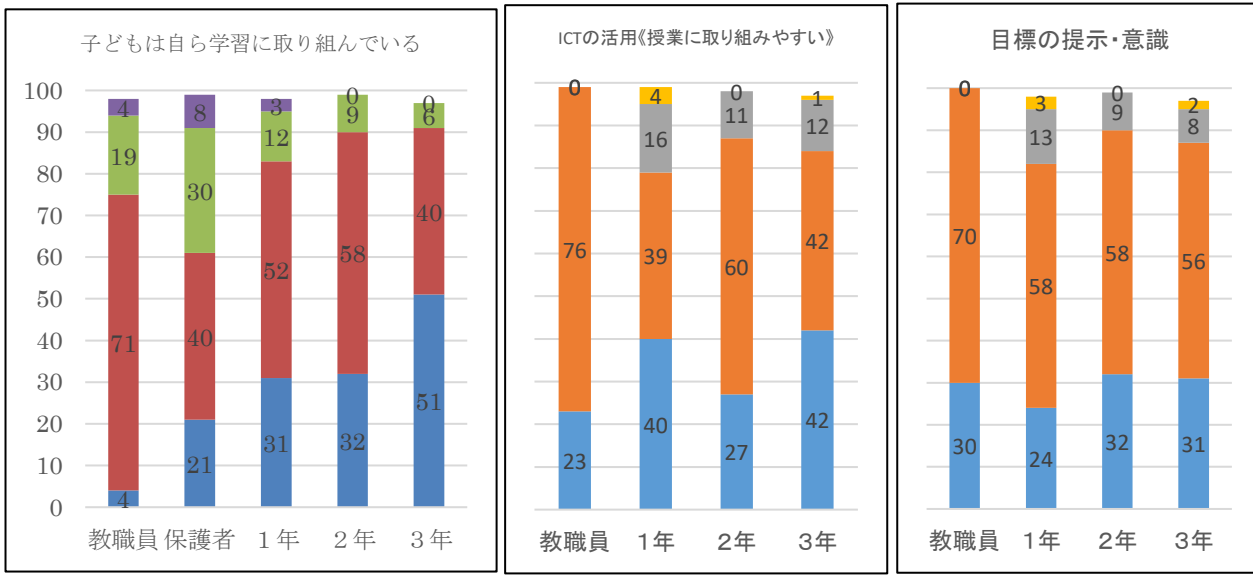
2年生の7月に実施したPre-Stage1で京都市平均より総合+0.3、国語+3.2、社会+3.9、数学-2.9、理科-4.9、英語+3.3と、国・社・英で上回り、数・理で下回る結果となった。

3年生の5月に実施した1st Stageで京都市平均より総合-1.8、国語+0.2、社会-0.5、数学-0.9、理科-4.0、英語-3.2と、国語以外の教科で下回る結果となった。

- ・ 全国学力・学習状況調査の結果

中学3年生で実施した調査について、国語は平均正答率が全国平均より+1.7%、数学は平均正答率が全国平均より-0.3%、理科は平均正答率が全国平均より-0.2%と、全ての教科において、全国平均と大きな差異はなかった。

- ・ 生徒、保護者及び教職員の評価アンケート結果 (下から、そう思う・大体そう思う・あまりそう思わない・そう思わない)



自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習確認プログラムの結果を受けて、1年生は、小学校での学習が定着していない生徒が多い可能性がある。2年生は特に数・理で、高位層と低位層に大きくわかれるニコブ型グラフとなり、特に低位の生徒が多いことが課題である。3年生は、特に理・英が厳しく、低位の生徒が多かった。これは、今年度実施した全国学力・学習状況調査とも近い結果となっている。 ・評価アンケートの結果から、生徒は、学習に前向きに取り組んでいると考えているが、教員や保護者からは、あまり取り組めていないと見るところも多い。また、ICTの利用や目標の提示でも、肯定的な意見は多いが教員と生徒の認識に差がある部分がある。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各授業でのICTの有効活用や授業の組み立て、子どもが自ら学習に取り組む工夫等について、教科の枠を越えた教職員間での交流ができるような環境づくりを目指す。 ・教職員内での授業参観等を行い、授業のスキルアップを目指した交流を目指す。
	<p>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習確認プログラム及び全国学力調査の結果分析 ・生徒、保護者及び教職員の評価アンケート結果 <p>※「子どもは授業に自分から取り組んでいる。」「ロイロノートの使用率」「目標の提示」の質問。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>子どもは学習に前向きと有り、教員・保護者はあまり…。子どもは時間が多いと前向きと考え、教員・保護者は点数が上がれば前向きと考えているのかもと思います。子どもたちに、時間や量ではなく、質の重要性を教えると良いのでは。</p>

最終評価

<p>（中間評価時に設定した）各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習確認プログラムの結果分析 <p>1年生の10月に実施したPre-Stage1で京都市平均より総合-7.8、国語-3.9、社会-7.7、数学-7.8、理科-11.0、英語-8.5と、全ての教科で下回る厳しい結果となった。</p> <p>2年生の10月に実施したPre-Stage2で京都市平均より総合+0.1、国語+4.9、社会+4.4、数学-2.5、理科-8.4、英語+3.1と、国・社・英で上回り、総合的に平均並みの結果となった。</p> <p>3年生の10月に実施した2nd Stageで京都市平均より総合-2.1、国語+2.1、社会-3.1、数学+0.9、理科-5.8、英語-3.5と、国・数で上回り、総合的に平均より少し下回る結果となった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒、保護者及び教職員の評価アンケート結果（下から、そう思う・大体そう思う・あまりそう思わない・そう思わない） 																																													
<p>子どもは自ら学習に取り組んでいる</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>そう思わない</th> <th>あまりそう思わない</th> <th>そう思う</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教職員</td> <td>17</td> <td>63</td> <td>21</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>16</td> <td>45</td> <td>34</td> </tr> <tr> <td>1年</td> <td>25</td> <td>53</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>2年</td> <td>35</td> <td>61</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>3年</td> <td>45</td> <td>50</td> <td>5</td> </tr> </tbody> </table>	対象	そう思わない	あまりそう思わない	そう思う	教職員	17	63	21	保護者	16	45	34	1年	25	53	19	2年	35	61	5	3年	45	50	5	<p>ICTの活用が有効</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>そう思わない</th> <th>あまりそう思わない</th> <th>そう思う</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教職員</td> <td>50</td> <td>42</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>1年</td> <td>41</td> <td>40</td> <td>17</td> </tr> <tr> <td>2年</td> <td>55</td> <td>35</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>3年</td> <td>55</td> <td>36</td> <td>7</td> </tr> </tbody> </table>	対象	そう思わない	あまりそう思わない	そう思う	教職員	50	42	4	1年	41	40	17	2年	55	35	8	3年	55	36	7
対象	そう思わない	あまりそう思わない	そう思う																																										
教職員	17	63	21																																										
保護者	16	45	34																																										
1年	25	53	19																																										
2年	35	61	5																																										
3年	45	50	5																																										
対象	そう思わない	あまりそう思わない	そう思う																																										
教職員	50	42	4																																										
1年	41	40	17																																										
2年	55	35	8																																										
3年	55	36	7																																										
<p>授業で目標の意識</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>そう思わない</th> <th>あまりそう思わない</th> <th>そう思う</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教職員</td> <td>33</td> <td>63</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>1年</td> <td>24</td> <td>52</td> <td>22</td> </tr> <tr> <td>2年</td> <td>21</td> <td>66</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>3年</td> <td>32</td> <td>57</td> <td>9</td> </tr> </tbody> </table>		対象	そう思わない	あまりそう思わない	そう思う	教職員	33	63	9	1年	24	52	22	2年	21	66	13	3年	32	57	9																								
対象	そう思わない	あまりそう思わない	そう思う																																										
教職員	33	63	9																																										
1年	24	52	22																																										
2年	21	66	13																																										
3年	32	57	9																																										

自己評価	<p><u>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習確認プログラムの結果を受けて、1年生は、小学校での学習が定着していない生徒が多い可能性がある。2年生は特に数・理で、二コブ型のグラフとなり、低位の生徒が多いことが課題である。3年生は、1stに引き続き、特に理・英が厳しく、低位の生徒が多かった。 ・評価アンケートの結果から、「子どもは授業に自分から取り組んでいる。」の項目は、前期と同じく生徒は、学習に前向きに取り組んでいると考えているが、教員や保護者からは、あまり取り組んでいないと見るところも多い。「ICTの活用」では、前期に比べ、教職員の意識が高くなり、生徒も肯定的な意見に捉えている。2ndGIGAとして、iPadが導入され利便性が高まったことも要因となっている。「目標の意識」では、前期後期で大きな差異は見られなかった。
	<p><u>分析を踏まえた取組の改善</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・各授業でICTの有効活用が進み、教職員間での交流ができるようになった。次年度も教職員間で交流しやすい環境づくりを目指す。 ・教職員内での授業参観等を行い、授業のスキルアップを目指した交流を目指す。
学校関係者評価	<p><u>学校関係者による意見・支援策</u></p> <p>学習に対しては、親の目線かというと、平均以上の親ならば、「足を引っ張る生徒が多く、先生の教え方が悪い」と考え、平均以下の親ならば、「うちの子はこんなもの、先生に頑張ってもらおう」と、共に先生に対して厳しいです。</p> <p>先生方の交流は、校内だけでなく、校外も含め、多岐にわたりベストな道へ進んでください。</p>

（２）「豊かな心」の育成に向けて

<p><u>重点目標</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が自ら考え判断し行動できる自立力の育成 ・道徳科教育の充実と実践（ブロック内1中2小連携の強化）
<p><u>具体的な取組</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常における生徒指導において「社会で許されない行為は、学校においても許されない」という毅然とした態度で指導実践を徹底するとともに、集団の中で子ども同士がともに指摘し、相互に高め合える学校風土の醸成 ・「あいさつ」「返事」「時間をまもる」「感謝」を常に意識した、礼儀や規範意識を持つ集団の育成 ・子どもが自己存在感や自己有用感を感じ、人間関係を育み、自己決定の場を持つことで、自己実現を図っていくことができる集団の醸成 ・「見逃しのない観察」「手遅れのない対応」「心の通った指導」を念頭に置き、一人一人の子どもと向き合い、その背景を的確に理解した上で、課題や問題に対する適切な指導支援 ・生徒会活動の活性化など、子どもの主体的及び自発的な活動を尊重した指導の徹底 ・いじめ事案は勿論のことであるが、SNSやネットを介した誹謗中傷は絶対に許されない人権侵害であることの意識の向上 ・体験活動等を通して、人のために役立つことや多様な人々と共生することの大切さの実感の獲得 ・多様化する社会の中で、自己実現に向けた様々な課題の解決を目指すなど、社会に主体的参画する意識の向上 ・「特別の教科 道徳」の評価が、生徒にとって、納得できる評価を確立するための検討と検証 ・道徳科の指導におけるブロック内（1中2小）9年間の義務教育における発達年齢に準じた内容の検討とカリキュラムマネジメントを用いた内容の精選検証

(取組結果を検証する) 各種指標

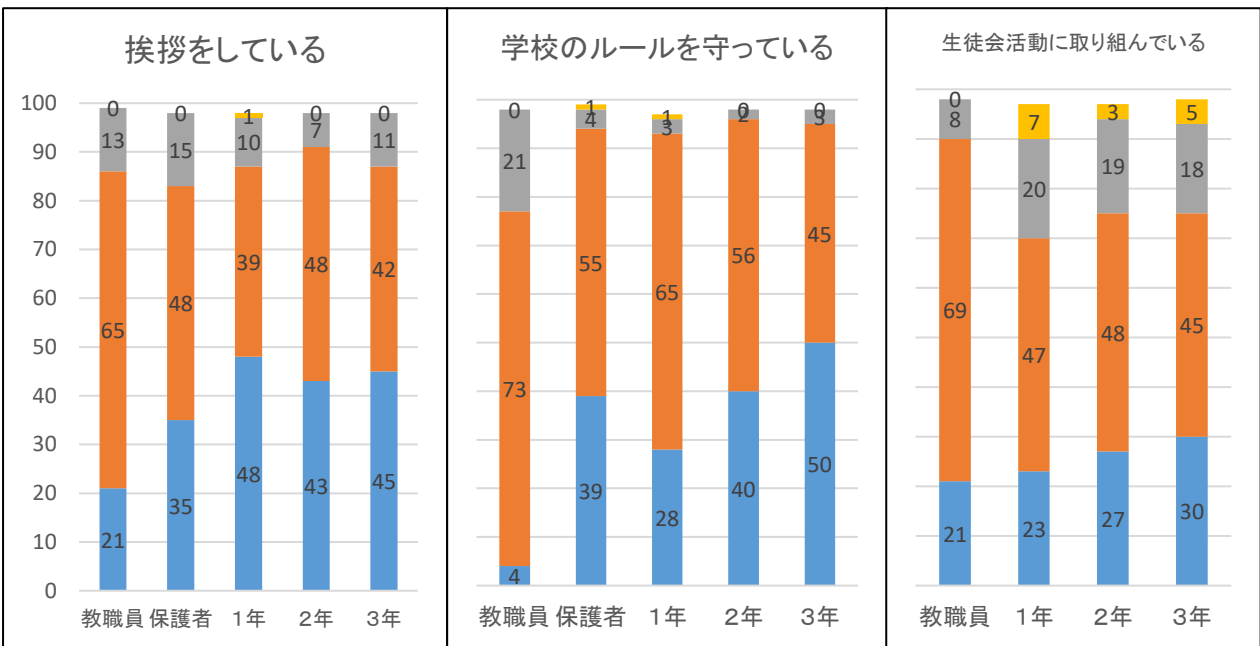
- ・いじめアンケート結果
- ・SNSに関わる問題行動内容と件数
- ・生徒、保護者および教職員評価アンケートの結果

※「子どもは挨拶をしている。」「生徒会活動の参加」「ルールを守る」の質問。

中間評価

各種指標結果

- ・いじめアンケート結果から、緊急性のある重大な案件は、現時点ではなかった。コミュニケーションの行き違いによる生徒間トラブルが多数を占める。
- ・SNSに関わる問題行動は1件。(8月末まで)
- ・生徒、保護者及び教職員の評価アンケート結果 (下から、そう思う・大体そう思う・あまりそう思わない・そう思わない)



自己評価

分析 (成果と課題)

- ・生徒が安全かつ安心して学校生活を送ることができている。
- ・評価アンケートから、挨拶は概ねできていると考えられる。学校のルールも生徒や保護者は概ね守ることができていると感じているが、教職員の認識の差がある。生徒会活動は、委員会活動をしている生徒とのしていない生徒との差があると考えられる。

分析を踏まえた取組の改善

- ・大多数の生徒は安全かつ安心して学校生活を送ることができている。だからこそ、表面上には現れにくいところにも、教職員が常にアンテナをはり、生徒の悩みや困りを早期発見し、素早く正確かつ丁寧に対処できる学校組織の構築を図る。
- ・「学校のルール」と「生徒会活動」について、生徒と教職員の認識に差が見られる。どちらも、教職員と生徒との差を縮め、教職員が生徒に寄り添いつつ指導できる体制を築き上げていく必要がある。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

- ・いじめアンケート結果
- ・SNSに関わる問題行動内容と件数

	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒、保護者および教職員評価アンケートの結果 <p>※「子どもは挨拶をしている。」「生徒会活動の参加」「ルールを守る」の質問。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>中学生なので「いじめ」と言いますが、世の中では「暴行」「障害」「脅迫」「名誉毀損」等の犯罪です。「いじめ」という言葉で甘やかさず、罪名を教え、厳しさを示すべきと思います。</p>

最終評価

<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめアンケート結果から、緊急性のある重大な案件は、現時点ではなかった。コミュニケーションの行き違いによる生徒間トラブルが多数を占める。 ・SNSに関わる問題行動は2件。(9月～2月まで) ・生徒、保護者及び教職員の評価アンケート結果 (下から、そう思う・大体そう思う・あまりそう思わない・そう思わない) 																																																	
<p>子どもは挨拶をしている</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>そう思う</th> <th>大体そう思う</th> <th>あまりそう思わない・そう思わない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教職員</td> <td>23</td> <td>50</td> <td>27</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>41</td> <td>45</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>1年</td> <td>52</td> <td>40</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>2年</td> <td>39</td> <td>53</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>3年</td> <td>46</td> <td>44</td> <td>10</td> </tr> </tbody> </table>	対象	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない・そう思わない	教職員	23	50	27	保護者	41	45	13	1年	52	40	7	2年	39	53	7	3年	46	44	10	<p>子どもは学校のルールを守る</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>そう思う</th> <th>大体そう思う</th> <th>あまりそう思わない・そう思わない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教職員</td> <td>4</td> <td>65</td> <td>31</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>41</td> <td>54</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>1年</td> <td>17</td> <td>67</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>2年</td> <td>39</td> <td>58</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>3年</td> <td>58</td> <td>38</td> <td>9</td> </tr> </tbody> </table>	対象	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない・そう思わない	教職員	4	65	31	保護者	41	54	4	1年	17	67	16	2年	39	58	9	3年	58	38	9
対象	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない・そう思わない																																														
教職員	23	50	27																																														
保護者	41	45	13																																														
1年	52	40	7																																														
2年	39	53	7																																														
3年	46	44	10																																														
対象	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない・そう思わない																																														
教職員	4	65	31																																														
保護者	41	54	4																																														
1年	17	67	16																																														
2年	39	58	9																																														
3年	58	38	9																																														
<p>生徒会活動に取り組んでいる</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>そう思う</th> <th>大体そう思う</th> <th>あまりそう思わない・そう思わない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教職員</td> <td>27</td> <td>69</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>1年</td> <td>27</td> <td>45</td> <td>17</td> </tr> <tr> <td>2年</td> <td>37</td> <td>43</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>3年</td> <td>23</td> <td>54</td> <td>21</td> </tr> </tbody> </table>		対象	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない・そう思わない	教職員	27	69	9	1年	27	45	17	2年	37	43	13	3年	23	54	21																												
対象	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない・そう思わない																																														
教職員	27	69	9																																														
1年	27	45	17																																														
2年	37	43	13																																														
3年	23	54	21																																														

自己評価	<p>分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が安全かつ安心して学校生活を送ることができている。 ・評価アンケートから、挨拶は概ねできていると考えられる。学校のルールも生徒や保護者は概ね守ることができていると感じているが、教職員の認識の差がある。生徒会活動は、委員会活動をしている生徒としていない生徒との差があると考えられる。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表面上には現れにくいところにも、教職員が常にアンテナをはり、生徒の悩みや困りを早期発見し、素早くかつ丁寧に対処できる学校組織の構築を図り、連携して取り組めるようにする。 ・「学校のルール」について、生徒と教職員の認識に差が見られる。教職員が生徒に寄り添いつつ、学校の安心安全を担保しながら、指導できる体制を築き上げていく必要がある。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>けんか、トラブル等は必ずあります。今後の人生で、もっとすごいトラブルもあります。中学生の内にトラブルの経験値を得ることも必要です。ただし、中学生が乗り越えられるトラブルです。「いじめ」は犯罪なので、トラブルが「いじめ」になる前に生徒たちを見てあげてください。</p>

(3)「健やかな体」の育成に向けて

重点目標

- ・ 基本的生活習慣を確立し自らの健康課題について考え解決し、心とからだを管理する力の育成
- ・ 危険を予測し、危機・健康・安全管理が適切にできる人間の育成

具体的な取組

- ・ 「ほけんしつだより」を通じて、栄養、衛生、免疫、う歯、耳、鼻等の疾患の診療と治療の啓発
- ・ 基本的生活習慣（「早寝、早起き、朝ごはん」）を自ら実践する力を育てる取組を充実させ、その実現を図るため保護者へ向けての協力依頼と啓発
- ・ 性に関する基礎的基本的事項を正しく理解させ、性に関する諸課題に対しての適切な行動ができる指導の充実
- ・ SNSを通しての性的被害など、新たな課題を踏まえて、その指導内容や方法について学校総体としての共通理解
- ・ 飲酒、喫煙、薬物の有害性や危険性についての正しい知識を身に付けさせ、生涯を通しての行動に結び付くような理科、保健体育科、家庭科、道徳科、特別活動等での関連した指導や薬物乱用防止教室実施等の積極的啓発
- ・ 危険予測能力、主体的回避能力、行動能力を育成し、日常生活に潜む多様な危険から自己を守るための知識と判断力を身に付ける、安全教育の計画的な取組の推進

(取組結果を検証する) 各種指標

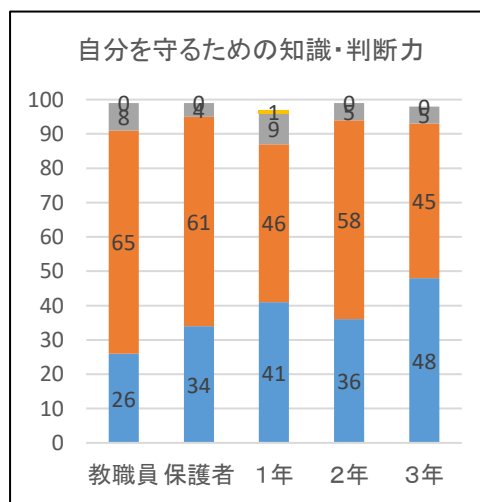
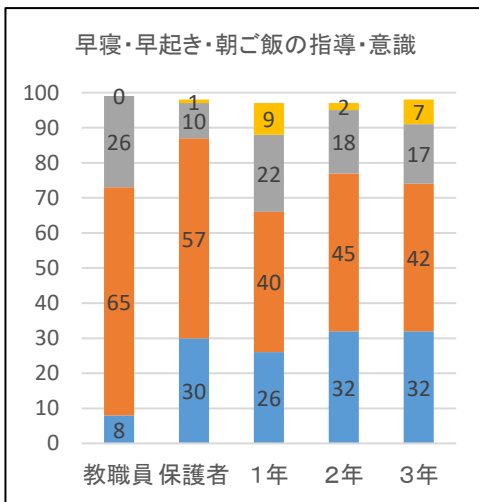
- ・ 「新体力テスト」の実施結果の分析
- ・ う歯の治癒のようす
- ・ 生徒、保護者及び教職員の評価アンケート結果

※「早寝・早起き・朝ご飯を意識している。」「日常生活の様々な危険から自分を守るための知識と判断力」の質問。

中間評価

各種指標結果

- ・ う歯所有率が全般的に高い。
- ・ 今年度歯科検診の結果う歯所有率は男子 28.2%、女子 39.7%で、そのうち8月末時点でのう歯処置率は男子 45.3%、女子 36.4%である。
- ・ 生徒、保護者及び教職員の評価アンケート結果 (下から、そう思う・大体そう思う・あまりそう思わない・そう思わない)

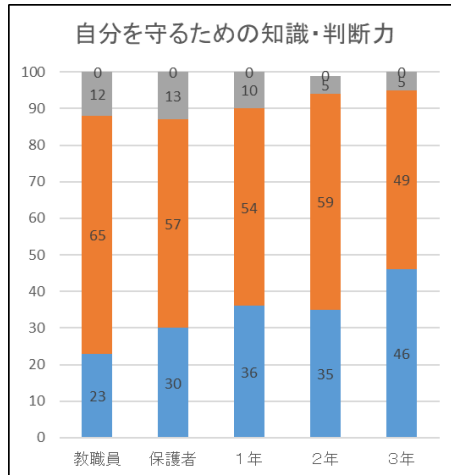
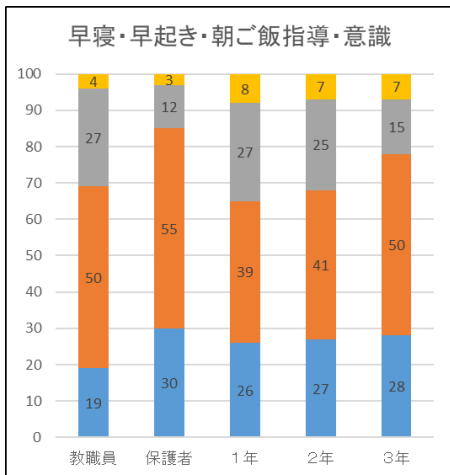


自己評価	分析（成果と課題） <ul style="list-style-type: none"> ・う歯所有率と処置率の結果が共に男子の方が好結果となっている。 ・「早寝・早起き・朝ご飯」の指導は教職員の指導の意識が低い。生徒も「あまりそう思わない」が多い。 ・自分を守るための知識や判断力については概ね意識できている。
	分析を踏まえた取組の改善 <ul style="list-style-type: none"> ・う歯についての改善が必要。 ・生活習慣について、学校でも適切に指導をしていく必要がある。保護者が指導する部分でもあるが、学校と保護者とで重ねて伝えていくことが生徒の成長につながる。
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標 <ul style="list-style-type: none"> ・12月に公表予定の「新体力テスト」の実施結果の分析 ・生徒、保護者及び教職員の評価アンケート結果 ※「早寝・早起き・朝ご飯を意識している。」「日常生活の様々な危険から自分を守るための知識と判断力」の質問。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 <ul style="list-style-type: none"> ・朝食は10時間ぶりの食事。朝食を抜くと、2/3の授業を空腹で受けるので、記憶力、判断力が劣り、ケガにつながる。朝食は頭と体に良い食事。 ・昼食は栄養士の考えた体に良い食事。 ・夕食は家族で今日の出来事を話す心に良い食事。

最終評価

（中間評価時に設定した）各種指標結果 ・「新体力テスト」の実施結果 <table style="float: right;"> <tr> <td>※A判定</td> <td>B判定</td> <td>C判定</td> <td>D判定</td> <td>E判定</td> </tr> </table>										※A判定	B判定	C判定	D判定	E判定
※A判定	B判定	C判定	D判定	E判定										
深草中の新体力テスト調査結果 前年度との比較	総合評価(%) -男女毎-	男子	R6	27	58	48	27	9	*いづれも小数第1位まで記入					
			R7	16	36	41	29	16						
		女子	R6	40	47	33	20	3						
			R7	24	30	44	25	10						
	体力合計点 平均(点)			1年男	1年女	2年男	2年女	3年男	3年女	平均				
		R6		37.2	44	44.9	46.7	51.9	55	46.6				
R7		30.4	41.7	41.6	45.2	51.1	44.4	42.4						

・生徒、保護者及び教職員の評価アンケート結果（下から、そう思う・大体そう思う・あまりそう思わない・そう思わない）



自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「新体力テスト」の結果から、男女ともに、体力の低下が見られた。判定別にみると D の割合は、男子が 2 人・女子が 5 人向上する結果となったが、A・B・C・E は低下している。一番差が現れたのは男子の B で 2 2 人、女子の B で 1 7 人という結果になった。男女ともに B の割合が大幅に減少していることがわかる。全体的に体力を向上させる必要がある。 ・「早寝・早起き・朝ご飯」の指導は教職員の指導の意識が低い。生徒も「あまりそう思わない」が多い。 ・自分を守るための知識や判断力については概ね意識できている。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「新体力テスト」の結果を踏まえ、保健体育の授業を見直しつつ、体力の向上を図る取り組みを計画していく。 ・生活習慣について、学校でも適切に指導をしていく必要がある。保護者が指導する部分でもあるが、学校と保護者とで重ねて伝えていくことが生徒の成長につながる。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>先生、生徒、親、全ての人が朝食を取る方が心身共に良いと知っているのに食べない。ただ食べるだけで頭も体力も心も向上する。ただ食べるだけなのに。朝食を取る、全てを豊かにする最も楽な方法ですので、もっと周知するべきです。</p>

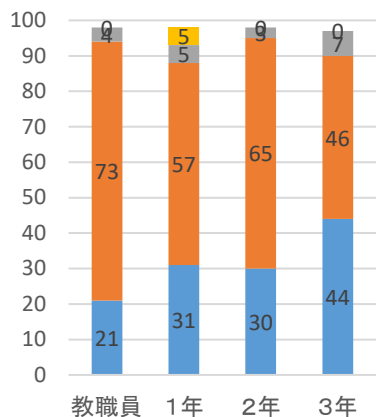
（４）学校独自の取組

<p>重点目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・深草中ブロック幼小中連携の確立 ・縦割活動の推進
<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・深草中ブロックの合同会議で、よりよい幼小中の連携を構築していく。 ・深草中ブロックでの合同研修会を実施し、幼小中間の課題を共有し、取組を推進する。 ・深草中独自の教育課程として、<u>縦割活動</u>を企画運営していく。
<p>（取組結果を検証する）各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合同研修会の振り返り ・生徒、保護者及び教職員の評価アンケート結果 ※「縦割活動に取り組んでいる」の質問

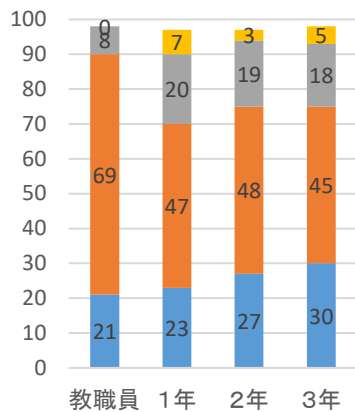
中間評価

<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8月に深草小、稲荷小、深草中の3校で合同研修会と授業参観を実施した。 ・昨年度から引き続き、縦割活動の推進を図っている。 ・生徒、保護者及び教職員の評価アンケート結果（下から、そう思う・大体そう思う・あまりそう思わない・そう思わない）

縦割活動



生徒会活動



自己評価

分析（成果と課題）

- ・ 3校での研修会を行うことで、顔の見える関係作りの一助となった。
- ・ 学年を超えた縦割活動を行うことで、先輩としての使命感や責任感を育むことにつながった。また、学年を越えたつながりの中で規範意識を養うことにつながった。

分析を踏まえた取組の改善

- ・ 3校での研修会の目的を確認しながら、計画をしていく。
- ・ 生徒会活動のデータと比較すると、縦割活動の方が生徒にとって達成感のある活動になっていると読み取れる。生徒会活動と縦割活動とをリンクさせながら、計画を練り、生徒にも教職員にも浸透させていく必要がある。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

- ・ 生徒、保護者及び教職員の評価アンケート結果

※「縦割活動に取り組んでいる」の質問

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

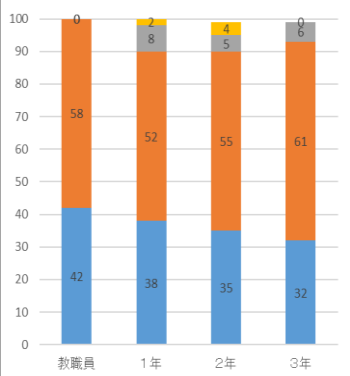
新入生の入る前の6年生の段階で、小中の校長、教頭、6年担任での合同研修会をし、入学前に個性の強い子どもを知り、対処する方が入学後より効率が良いと考えます。

最終評価

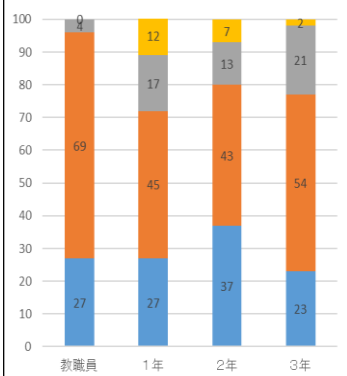
（中間評価時に設定した）各種指標結果

- ・ 生徒、保護者及び教職員の評価アンケート結果（下から、そう思う・大体そう思う・あまりそう思わない・そう思わない）

縦割活動に取り組んでいる



生徒会活動に取り組んでいる



小中連携について（教職員のみアンケート）

	前期	後期
そう思わない	4	12
あまりそう思わない	52	19
大体そう思う	39	58
そう思う	4	12

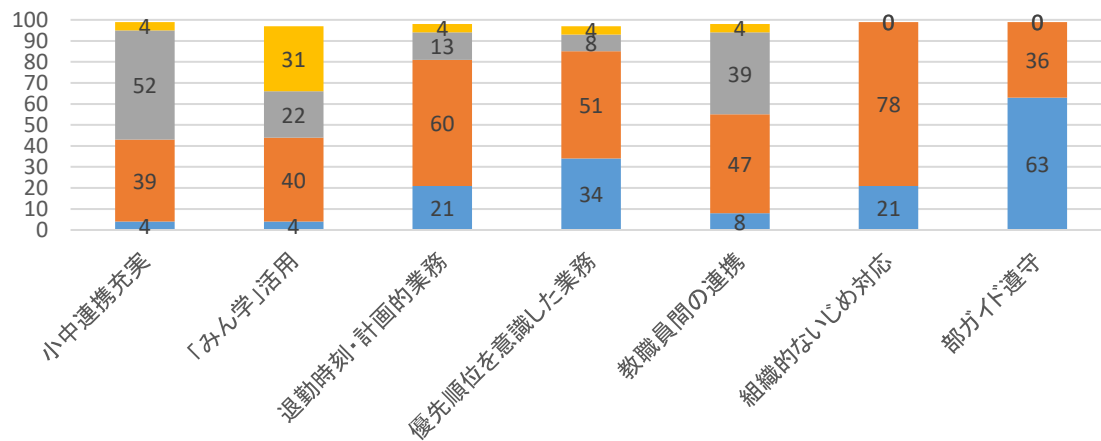
自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中連携については、3校での研修会を行うことで、顔の見える関係作りの一助となり、前期よりも大幅にポイントが上がった。 ・生徒期活動も、前回よりポイントが少し上がり、自主的に活動する意識が向上している、 ・縦割活動についても、前期より大幅にポイントが上がり、深草中学校の特色ある教育活動の一環として、柱になりつつある。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中連携は、取り組むことを明確にしながら、より一層連携を深めていきたい。 ・今年度で2年目となった縦割活動についても、今年度の活動をたたき台として、次年度以降も深草中学校の具体的な教育活動の一環として、確立していきたい。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>ポイントが上がっているのは良い傾向だと思います。深草中学校と深草小学校は近いので、時間を作り、2校研修会を実施して、稲荷小学校は、少数なので、数回の2校研修会をすれば、入学後の指導が格段に良くなると思います。</p>

（5）教職員の働き方改革について

<p>重点目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業務の分散と効率化 ・風通しの良い職場環境の構築 ・ワークライフバランスを意識した、教職員の勤務状態の改善する取組
<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業務の精選と分散を進め、様々な教職員が中心となる分掌、役割を任せ、効率化を図る。 ・職員室内の整理整頓を行い、環境を整え、気持ちよく勤務ができる場にする。 ・悩みや困っていることが気軽に相談できる職場にしていく。 ・保護者等への配布物や連絡のデジタル化を進め、効率を図る。 ・職員会議や研修会のペーパーレス化を行い、効率化を図る。 ・職員会議や研修会や打ち合わせなどを勤務時間内で行うことを意識する。 ・「18時留守電」とする。 ・19時30分までにはセットを毎日の目標とする。
<p>（取組結果を検証する）各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の超過勤務の変化 ・授業等でのICT活用の実態 ・教職員アンケートの「教職員間で連携をとって、円滑に学校業務を進められている。」「働き方」に関する項目

中間評価

<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の超過勤務は全体として減少しているものの、一部は改善されていない。 ・今年度より、職員会議や研修会のレジュメをデジタル化した。また、職員会議の中で授業でも使えるICT活用の紹介を行ったことで、授業でのICTの活用が広まった。 ・教職員の評価アンケート結果（下から、そう思う・大体そう思う・あまりそう思わない・そう思わない）
--



自己評価

分析（成果と課題）

- ・組織上は業務分散されたが、効率化については、改善されていない実態がある。
- ・勤務時間の意識や、個々の教職員の事情を踏まえた運営が必要である。
- ・「18時留守電」と「すぐーる」が浸透し、保護者との連携が効率的になった。
- ・教職員アンケートの結果から、特に教職員間の連携に課題を抱えている。

分析を踏まえた取組の改善

- ・業務の効率化を目指した組織的な業務改善が必要。
- ・勤務時間を意識した学校運営。
- ・学校側からの連絡も、電話の対応時間を意識する必要がある。
- ・学年主任が中心となり、学年内での連携の調整を行い、学年をまたがっての連携を調整していく。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

- ・教職員の超過勤務の変化
- ・授業等での ICT 活用の実態
- ・教職員アンケートの「教職員間で連携をとって、円滑に学校業務を進められている。」「働き方」に関する項目

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

すでに教職員の努力では限界に達しています。明らかな人手不足。賃金を上げ、採用人数を増やし、より細やかな業務をし、よりよき人間を育てる。子どもたちにとって良いとわかっていることは必ずすべき。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果

・教職員の超過勤務の変化

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
人数	15	15	15	13	0	19	13	9	7	9

上記の表は、超過勤務（月 45 時間以上）の人数である。11 月以降は人数も減少傾向である。

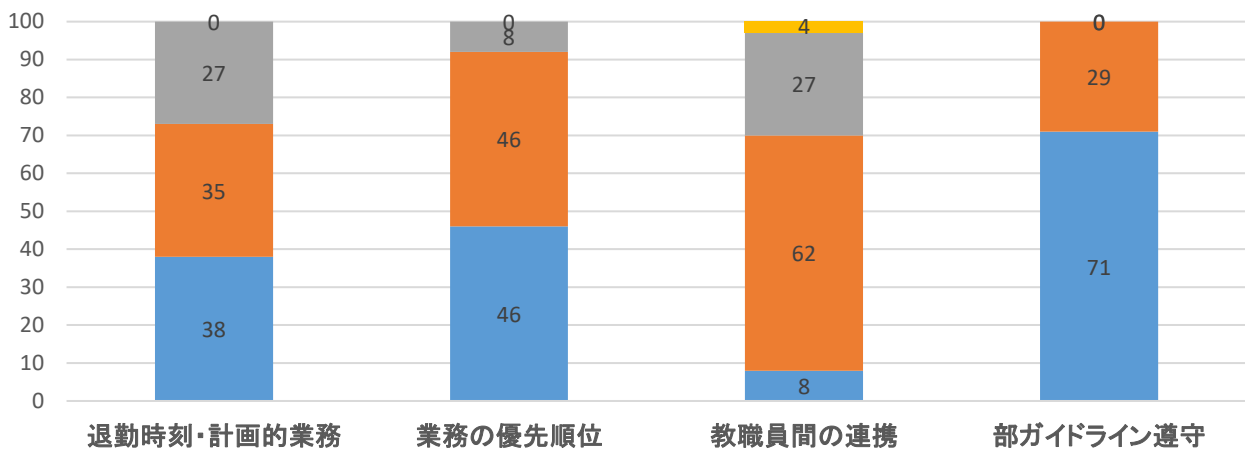
・授業等での ICT 活用の実態

先述の「確かな学力」の項目で表記済み

・教職員アンケートの「教職員間で連携をとって、円滑に学校業務を進められている。」「働き方」に関する項目（下から、そう思う・大体そう思う・あまりそう思わない・そう思わない）

※中間評価の時点で、この項目の対象にならないグラフ（小中連携、「みん学」の活用、組織的ないじめ対応）も挙げていたので割愛した。

教職員の働き方に関するアンケート



自己評価

分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題

- ・組織上は業務分散されたが、効率化については、改善されていない実態がある。
- ・勤務時間の意識や、個々の教職員の事情を踏まえた運営が必要である。
- ・2ndGIGA の導入により、授業等で ICT を活用する教員が増えた。
- ・「18 時留守電」と「すぐーる」が浸透し、保護者との連携が効率的になった。
- ・教職員アンケートの結果から、前期よりも改善されたが、教職員間の連携は課題である。

分析を踏まえた取組の改善

- ・目に見える形で組織図を表し、個々の業務の明確化を図る。
- ・見通しを持った業務を目指し、計画を具体的に示していく、
- ・留守電の時間の見直しと、学校からの電話をかける時間の見直し。
- ・教職員間の連携を深めるために、会議の在り方等を検討していく。

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

学校を会社に例えると、毎日残業しなければ、業務がこなせないという事態が起こること、経営陣が悪い。人を増やす、機械化を進める等、方法は多い。現状での努力や効率化では無理なことはわかっているはず。社員（教職員）が疲弊しては、客（生徒）にベストは尽くせない。まずは社員の疲弊を取り除くべき。生徒たちの街、京都として、人手を増やし、教職員週休3日制、1日6時間交代制等、いくらでもある。あとは経営陣がやるかやらぬかである。

(6) いじめの防止等についての取組に向けて

重点目標

学校生活の全ての場面で、生徒同士や教職員と生徒との関わりを深め、尊重し合うことを基盤にし、いじめの未然防止・早期発見・積極的認知を行い、初期対応、解決と事後観察を実施できる学校体制と教職員の体制を構築していく。

具体的な取組

「学校いじめ防止基本方針」に同じ

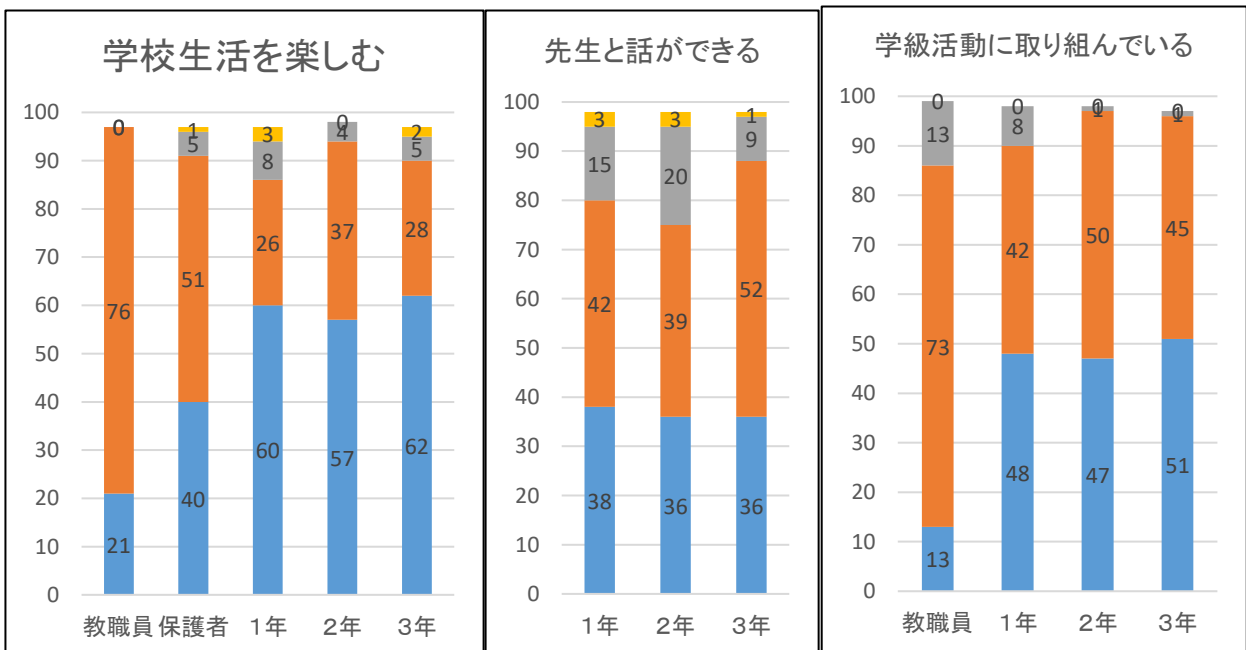
(取組結果を検証する) 各種指標

- ①全教職員が「学校いじめ防止基本方針」の内容を理解し、組織的対応に努めている。
- ②学校のいじめ対策委員会のメンバーを生徒に紹介している。
- ③いじめに係る既存の「学校評価：生徒アンケート項目」の「学校に楽しく通うことができますか」「学校で、先生や友達から大切にされていると思いますか」の項目を活用し、教職員が共有するとともに、適切な対応・指導を迅速に行う。
- ④生徒・保護者の訴え（アンケート結果含む）や相談内容を共有している。
- ⑤保護者や学校運営協議会等に、「学校いじめ防止基本方針」や学校の取組について説明・周知している。

中間評価

各種指標結果

- ①年度当初の職員会議を通じて、全職員に「学校いじめ防止基本方針」の内容を周知した。
- ②全校集会とホームページで紹介した。
- ③以下の三つの質問項目でアンケートをとった。
・生徒、保護者及び教職員の評価アンケート結果（下から、そう思う・大体そう思う・あまりそう思わない・そう思わない）



- ④毎週の補導係会（SC・SSWも参加）や毎月の生徒指導委員会で情報の確認・整理を行った。
- ⑤保護者にはホームページを通じて、学校運営協議会には9月末に説明・周知した。

自 分析（成果と課題）

已 評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒に関する情報交換が教職員間で行われている。 ・教職員や保護者が考えているより、「学校が楽しい」と感じている生徒は多い。ただし、あまり楽しくないと答えている生徒も一定数いることを意識する。 ・「先生と話ができる」と答えている生徒が多数いる一方で、「話がしにくい」と感じている生徒もいること、普段から関わりが薄い生徒がいることを意識する。 ・学校運営協議会や保護者に対して「学校いじめ防止基本方針」や「学校の取り組み」の紹介をホームページや「学校便り」を通じて行っている。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒に関する情報交換を組織的に取り組んでいく必要がある。 ・普段から関わりが薄い生徒がいることを意識し、積極的に目を向け、教育相談や懇談の機会を通じて、より理解できるようにする。 ・保護者や家庭、地域との関係の構築を図る。
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケートの結果
学 校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>生徒を「見る」から「観る」へ、多くの取り組みをされていると思います。早期発見には、生徒が先生へ伝える方法、ネット、手紙、匿名性等、壁のないやり方を。防犯カメラで死角をなくす。監視っぽく嫌なのですが、「いじめ」よりいいです。</p>

最終評価

自 己 評 価	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒、保護者及び教職員の評価アンケート結果 (下から、そう思う・大体そう思う・あまりそう思わない・そう思わない)
	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>学校生活を楽しむ</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>先生と話ができる</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>学級活動に取り組む</p> </div> </div>
自 己 評 価	<p>分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒に関する情報交換が丁寧に教職員間で行われている。 ・教職員や保護者が考えているより、全学年で「学校が楽しい」と感じている生徒は多い。ただし、あまり楽しくないと答えている生徒も一定数いることを意識する。 ・3年生で前期よりも「話がしにくい」と感じている生徒が減った。進路選択に向けて、話を深められたことが考えられる。 ・学校運営協議会や保護者に対して「学校いじめ防止基本方針」や「学校の取り組み」の紹介をホームページや「学校便り」を通じて行っている。

	<p><u>分析を踏まえた取組の改善</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後とも、生徒に関する情報交換を組織的に取り組んでいく。 ・子どもたちを誰一人取り残さないことを意識し、積極的に働きかけを行い、教育相談や懇談の機会のみならず常日頃から、より理解できるようにする。 ・保護者や家庭、地域との信頼関係の構築を図る。
<p>学校関係者評価</p>	<p><u>学校関係者による意見・支援策</u></p> <p>学校が楽しいと思う生徒が多いことは、地域の代表としてもうれしいことです。この数が伸びていくことを期待します。「誰一人取り残さない」これを文字で表される琴で努力されていることがわかります。トラブルを解決する前に卒業する生徒もおります。そんな生徒にも、「今はつらいけど未来はめっちゃ楽しいよ」って教えてあげてください。</p>